

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000554		
法人名	特定非営利活動法人さざんか園		
事業所名	グループホームさざんか園		
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南23167番地19 (電話) 0983-27-7380		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成21年12月22日

【情報提供票より】（平成21年10月26日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成15年1月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤3人, 常勤換算7.5人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成21年10月26日現在）

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1	要介護2	4
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 89 歳	最低 80 歳	最高 100 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	尾鈴クリニック、木城クリニック、江藤歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を自然に囲まれ、四季折々の風景を感じられる環境の中にあるホームである。理事長、管理者の想いの下に掲げられた「地域との交流」「言葉、笑顔、穏やかな気持ちでの介護」「守秘義務」が職員にも周知され、和やかな雰囲気の下、穏やかな、ゆったりとした時間が流れている。利用者の表情も良く、状態に応じたケアがされている。地域住民との交流も盛んであり、近隣の住民からの旬の食材の差し入れも頻回である。また、年1回主催するフリーマーケットにおいても地域の協力が多大であり、ホームも地域の行事には積極的に参加している。ホーム内にも手作りの工夫がしてあり、温かみを感じられる。同業者との交流も盛んであり、職員の教育にも熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の評価にて、評価の意義の理解、介護計画、災害対策が挙げられていたが、職員間の毎日のミーティングや毎月の学習会、運営推進会議の中での話し合いを通して改善に向けての取り組みがなされていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 今回の自己評価を通し、理事長、管理者、職員共にこれまでのケアの振り返りの機会となっていた。職員においては、利用者との日々のコミュニケーションのとり方や思いや意向の把握に努める機会となり、理事長、管理者は職員間の和を通し、利用者へ還元する取り組みがなされていた。
	重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議では、事業所の活動報告、行事報告が主に行われている。地域の行事や年に1度の事業所主催のフリーマーケットの話し合いも行われ、民生委員の協力もあり、地域を取り巻いた取り組みができてい。災害対策においても地域住民の協力が得られている。職員全員参加であり、運営推進会議で討議された内容が日々のケアに生かされた取り組みがなされている。
	重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 利用料の支払いに毎月家族が来訪するシステムがとられ、家族がホームを訪れる頻度も多く、職員は意見、苦情等の聴き取りに配慮した声掛けを心掛けている。家族との関係も図られ、運営者は言葉掛けに常に気を配り、職員にも周知し利用者、家族との関係に努めている。また、全員が事業所の運営、ケアに対し向上心を持ち、家族から出された意見は運営に反映できるよう取り組んでいる。
重点項目④		日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域住民との交流は深く、旬の食材が差し入れされるなど日常的な交流がある。ホームの行事にも協力が得られ、地域の子ども達との交流も計画されている。ホームにおいても地域の行事には積極的に参加している。また、災害対策においても近隣の住民の協力が得られ、互いに協力し合う関係ができてい。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長のホームに対する思いから「ありがとう、よかったね、ごめんね」の言葉掛けや「地域との交流」「守秘義務」の事業所独自の理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員の交代時間を利用し理念を読み上げている。理念は管理者、職員に共有され実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が年1回主催するフリーマーケットをはじめ、地域の行事にも進んで参加し地域との交流が図られている。地域の子どものとの交流も予定され、地元の人々との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事長、管理者、職員は評価の意義を理解している。運営推進会議においても報告がなされ、事業所の勉強会においても話し合い、日々の業務に評価を生かした取り組みをしている。	○	職員一人ひとりが自己評価、外部評価の意義を理解し、更なる質の向上に取り組まれることを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、役場、民生委員、家族代表、職員、住民代表で構成され、3か月に1度行われている。会議では、事業所の近況報告、行事報告等が行われ、そこでの意見がサービスの向上に生かされている。特に民生委員の方の協力により、地域との連携が図られる場面も多くある。	○	運営推進会議がサービスの向上に活かされているが、更なる活発な意見交換がなされることが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外においても、随時役場との連携が図られている。行政の主催する勉強会にも積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月ごとに出される「園便り」にて事業所の近況報告ができています。入金で来訪の際や随時の連絡、報告もなされている。家族が来訪されることも多く、個々に合わせた報告ができています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情等はないが、職員から家族に窺うように心掛けている。また、何でも言いやすい雰囲気作りに努め、家族に安心してもらえるよう心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、理事長、管理者はスタッフの和を大切に、利用者に影響が出ないように努めている。新人職員は、採用前に利用者になじんでもらうようにし、利用者への配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の他事業所との研修会を実施しており、全職員が出られるよう環境の整備がされている。毎月の学習会も開催され、研修会後においても随時の報告ができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他事業所と年3回の交流を図り、研修会も開かれている。相互の訪問も行われ、サービスの質の向上が図られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に来訪してもらったりしている。職員も本人が安心して過ごせるよう、寄り添うケアに努め、笑顔を絶やさず、雰囲気作りに工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、そば打ちをともに行うなどの日常の会話を通して本人から学んだりしている。本人の能力にあった役割などの中で、寄り添うケアを行い、言葉掛けに気をつけ、支えあう関係作りができています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、昔話などから思いや意向の把握を行い、畑に出かけたり、家に訪問したりと希望を聞きだし、できることはすぐに実行している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が来訪された時には意向を聞くようにし、毎日のミーティングや毎月の学習会では利用者一人ひとりのケアについて話し合い、利用者本位の介護計画になるよう作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた際には随時家族と連絡を取り、毎日のミーティングや毎月の学習会、特記事項を記したノート、カレンダーを利用した記録等により利用者の状態を把握し、家族や職員との話し合いを持ち、現状に即した介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の意向によりホーム敷地内の畑へ行ったり、自宅へ訪問したりとその時々々の要望に応じ柔軟な支援がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との十分な話し合いの下、定期的な掛かりつけ医への受診や、場合によっては往診もあり、適切な医療が受けられる支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とも十分な話し合いが持たれ、同意書も作成されている。協力医との連携も図られており、職員とも重度化や終末期に向けた方針が共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日のミーティングや毎月の学習会で言葉遣いについて常に話し合いがされている。一人ひとりの対応においても理事長、管理者が常に気をつけ、そのつど指導している。記録も十分な保管がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのその日の体調に合わせたペースを大切に、利用者の意向に沿ったその人らしい過ごし方の支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で取れた食材や地域の方から差し入れられた旬の食材を利用した食事が準備され、利用者も残さず食べている。職員も一緒に同じものを食べ、利用者へのさりげない支援がなされている。能力に応じた準備や後片づけも職員とともに行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日ごとの入浴で、入浴剤を使用し温泉気分を楽しんでもらっている。入浴後にはベビーオイルを使用し、フットマッサージを行い利用者に喜ばれている。また、マッサージを行いながら足の指当てクイズを行い、楽しみながらの入浴支援がなされている。状況によってはシャワーや清拭に対処している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗ふきや洗濯物たたみなどの役割がある。野菜の選定は利用者も進んで行い、一人ひとりの生活歴や能力に応じた役割、楽しみごとの支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は利用者の高齢化に伴い遠方への外出は難しい状態ではあるが、事業所の周囲を散歩したり、園庭にあるあずまやでお茶を飲んだり、デッキにて食事をしたりと日常的な外出支援ができています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けておらず、理事長、管理者、職員は鍵を掛けないケアを理解し、見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	9月に消防署の協力の下、避難訓練が実施されている。地域の協力も得られており、夜間対策もマニュアルが作成され、緊急時の対応においても日々話し合いがされている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度、栄養士によるカロリー計算がされている。夏場には、ペットボトルを利用した水分確保の支援もなされ、水分、排尿のチェックがされ、利用者の状態に応じた支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、見晴らしも良く季節感が漂う雰囲気作りができています。居心地良く座れるソファやコタツも工夫され、随所に利用者が居心地良く過ごせるような工夫が手作りでされている。木を利用したものが多く、温かみを感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた物が持ち込まれ、家族の写真なども部屋に飾られていた。ベッドも工夫により、一人ひとりに合った高さに調節されており、本人が居心地良く過ごせる工夫がなされていた。		

※  は、重点項目。